

横浜インターナショナルカクテルコンペティション 2025

クリエイティブ部門

審査総評

今年も横浜インターナショナル・カクテルコンペティションの舞台で、皆さんの情熱と創造性に出会えたことを心から嬉しく思います。

今年のテーマは「インディアン・デスロック」という、実にユニークな題材でした。

プロレス技の名を冠したこのテーマに対し、ある選手はカクテルのレシピ構造から発想を広げ、また別の選手は“プロレスという物語”そのものを作品として表現していました。それぞれの解釈が鮮やかに分かれ、非常に見応えのある素晴らしい競技となりました。

クリエイティブ部門も今回で第8回を迎えます。

その名の通り、「創造性」という言葉にふさわしい作品が年々増えてきたことを、大変嬉しく感じています。

過去の総評で繰り返しお伝えしてきたように、このコンペティションは「ミクソロジー技術」を競う場ではなく、「カクテルという飲料の可能性を拡げるための舞台」です。

誰かが始めた分子技法や調理法、自家製素材を取り入れるだけでは、真の「クリエイティビティ」とは言えません。

創造とは、既存の要素を寄せ集めることではなく、“0 から 1 を生み出すこと”に宿るものだと思います。

カクテルの創造性とは、絵画や音楽のように視覚や聴覚に訴えるだけでなく、味覚と嗅覚を通じて人の心を動かすことに本質があります。

さらにカクテルは、味覚・嗅覚・触覚・視覚・聴覚の五感に加え、

「記憶」（懐かしさや季節感）、「時間」（間やテンポ、時代性）、

「情緒」（表情やユーモア）といった感覚までも作品に取り込むことのできる、極めて豊かな表現媒体です。

こうした“多感覚的な創造性”から生まれる新しい表現こそが、カクテルの未来を切り拓いていくものと確信しています。

その可能性を新たな形で提示してくれる作品、そして挑戦者が今後ますます増えてい

くことを、心より楽しみにしています。